VIBRA

本質安全防爆構造電子はかり

GZⅡ-N
GZⅡ-B
シリーズ

取 扱 説 明 書

お ね が い

- はかりを安全に正しく使用していただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり、内容を十分理解した上で正しくお使いください。
- この取扱説明書は、お読みになった後も本体の近くに大切に保管し、必要な時にお読みください。
- 保証書を別添付しています。お手数ですが、必要事項をご記入の上、弊社宛にＦＡＸをお願い致します。

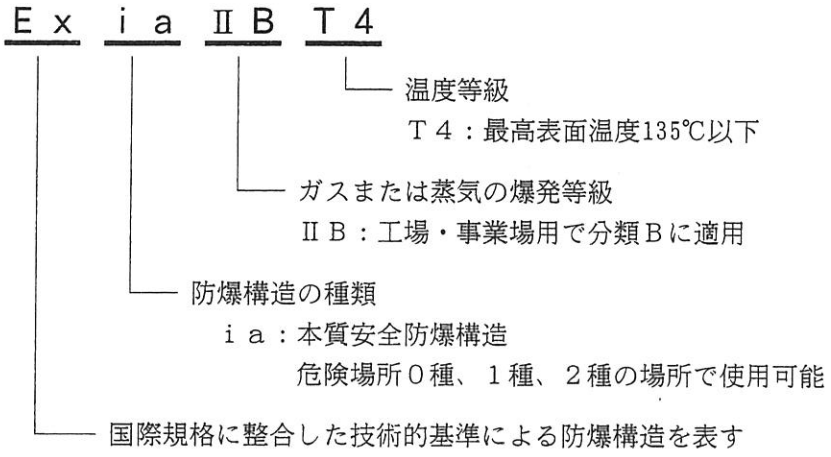
新光電子株式会社

はじめに

この度は、本質安全防爆構造電子はかり『ＧＺⅡシリーズ』をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございます。

このはかりは、本質安全防爆構造の電気機器として、社団法人産業安全技術協会の型式検定に合格した防爆型の電子はかりです。
このはかりは、爆発性ガスの雰囲気内で使用しても、正常時は勿論異常時(故障時)においても電気火花の発生および、部品温度の上昇で爆発しない事が確認されています。

☆認可を受けた防爆構造の種類



目　　次

設置条件と注意

1 設置条件(防爆仕様)……3
2 設置上の注意……5

各部の名称と働き

1 外　　観……6
2 パネル部の詳細……7

据え付け

1 梱包品の確認……8
2 据え付け上の注意……9
3 小型はかりの組立……10
4 中型と大型はかりの組立
……11,12
5 はかりの水平調整……13
6 電源ボックスの据え付け‥14
7 電池の入れ方……15

はかりの基本操作

1 始動と動作確認……16
2 風袋引と計量……17
3 はかり取り扱い上の注意‥18

加算機能

1 加算機能の選択……19
2 加算と合計値表示……20,21

リミット機能

1 リミット機能の選択‥‥22,23
2 実量設定法……24,25
3 数値設定法……26,27

ファンクション

1 ﾌｧﾝｸｼｮﾝ項目と働き‥‥28,29
2 設定値の確認……30
3 設定内容の変更……31

はかりの校正

1 スパン調整をする……32,33

故障と思われたら

……34

使用できる対象ガス

……35

標準仕様

1 共通仕様……36
2 機種構成……37

お願い・ご注意

設置工事に関する詳しい内容は、㈳産業安全技術協会が発行している『工場電気設備防爆指針（ガス蒸気防爆1979）』及び『ユーザーのための工場防爆電気設備ガイド（ガス防爆1994)』を参考にしてください。

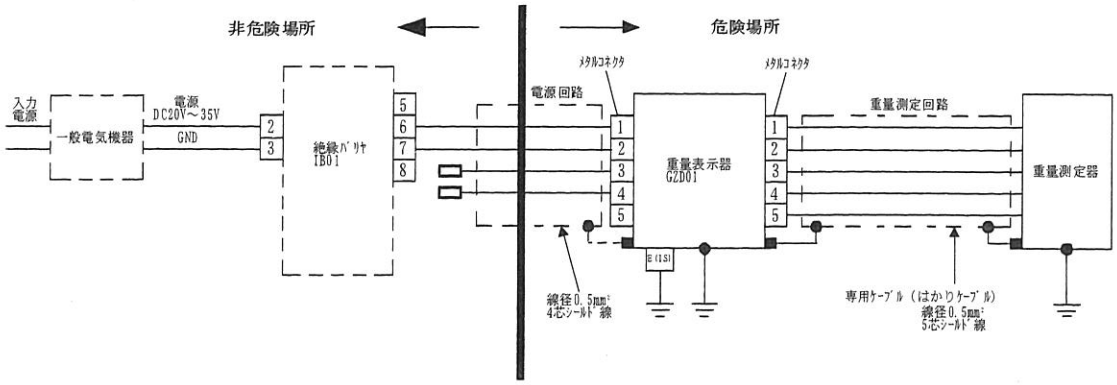
なお、誤った取扱いにより生じた故障およびクレームは、責任を負いかねますのでご了承くださいますようお願い致します。

設置条件と注意

爆発性ガスの雰囲気中で使用しても安全なはかりです。但し、設置工事および、取り扱いを誤ると大変危険です。安全に御使用いただくために、社団法人産業安全技術協会発行の『工場電気設備防爆指針（ガス蒸気防爆 1979)』及び『ユーザーのための工場防爆電気設備ガイド（ガス防爆 1994)』をご参照の上、適切な設置をしてください。特に注意する事項は、次の「設置上の注意」を参照してください。

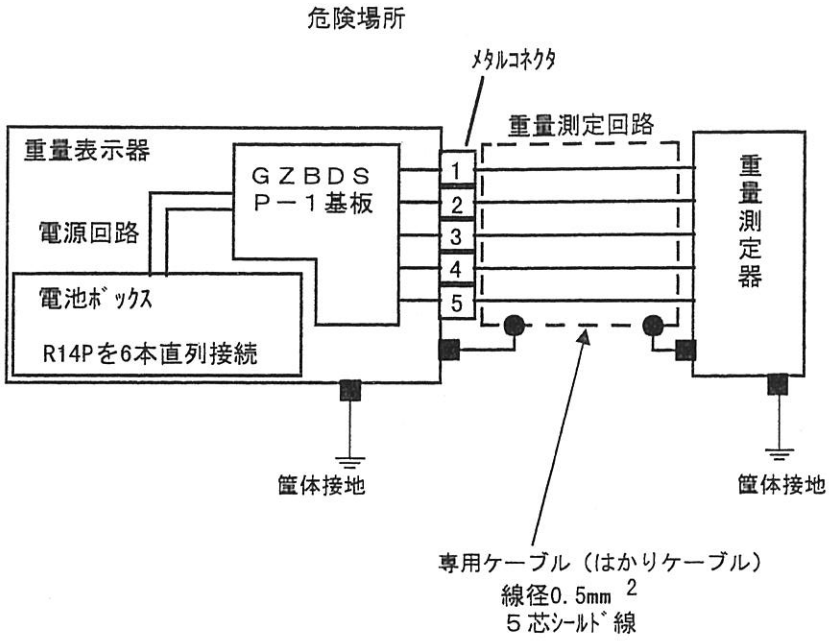
1 設置条件（防爆仕様）

◆電源ボックス型



◇最大電圧：Ｕ₀＝４３［ｖ］
◇最大電流：Ｉ₀＝１７０［ｍＡ］
◇最大電力：Ｐ₀＝０．９３１［Ｗ］
◇専用ケーブル（はかりケーブル）以外の本安回路外部配線のインダクタンス
：０．７ｍＨ以下
◇専用ケーブル（はかりケーブル）以外の本安回路外部配線のキャパシタンス
：０．０５μＦ以下
◇専用ケーブル（はかりケーブル）のインダクタンス
：０．０１ｍＨ以下
◇専用ケーブル（はかりケーブル）のキャパシタンス
：０．００５μＦ以下
◇絶縁バリヤと接続される一般電気機器の条件
：入力電源及び機器内部の電圧等の対地電圧は、正常時及び異常時においても
ＡＣ２５０Ｖ，５０／６０Ｈｚ，ＤＣ２５０Ｖを越えないものとする。
◇Ｅ（ＩＳ）は、本質安全防爆構造の保守用の接地端子であること。

◆乾電池駆動型



◇専用ケーブル（はかりケーブル）のインダクタンス
　：０．０１ｍＨ以下
◇専用ケーブル（はかりケーブル）のキャパシタンス
　：０．００５μＦ以下
◇電池ボックスに収納する乾電池は、下記のものを使用する。
　：Ｒ１４Ｐ（６本直列接続）
◇危険場所での電池交換を禁止する。

2 設置上の注意

1．乾電池駆動型の電池交換は、必ず非危険場所で作業してください。
使用できる乾電池は、赤色の単２マンガン電池(型式:R14P)のみに限定されます。

2．電源ボックス型は、危険場所と非危険場所間を電源ケーブルが通ります。この電源ケーブルの引込部は、必ず規定のガス流動防止工事をしてください。

3．電源ボックスとバリアは、危険場所に絶対設置しないでください。

4．電源ボックス型には、電源ケーブル５ｍが標準付属されています。
ケーブルの延長は、オプションで５ｍ単位,最大100ｍまで可能です。この当社製ケーブルを使用して戴きます様お薦めします。お客様がケーブルを製作する場合は、防爆構造上いくつかの条件がありますので、必ず当社にお問い合わせください。

5．はかりケーブルおよび電源ケーブルは、モーターの動力線等他の配線ケーブルから分離してください。静電誘導および電磁誘導を受けて本質安全防爆性能を損なう恐れが有りますので、下記方法を参考にして配線してください。

① 誘導の影響を無視出来る配線間の最小平行線距離を確保する方法

他回路の電圧電流	100A超過	100A以下	50A以下	10A以下
440V超過	2000mm	2000mm	2000mm	2000mm
440V以下	2000mm	600mm	600mm	600mm
220V以下	2000mm	600mm	600mm	500mm
110V以下	2000mm	600mm	500mm	300mm
60V以下	2000mm	500mm	300mm	150mm

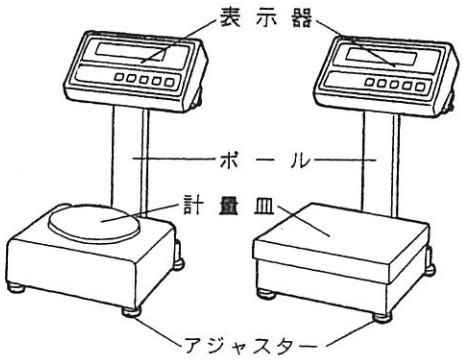
② 鋼製電線管に納める配線方法
上記の静電誘導および電磁誘導を除去するためと、ケーブルの保護のために金属管に納めていただく事をお薦めします。
なお、この金属管内には他の配線ケーブルを入れないでください。

設置条件と注意は、この機器の本質安全防爆性能を確保し、安全に御使用いただく為に必ずお守りください。なお、設置工事に関する詳細は、社団法人産業安全技術協会発行の『工場電気設備防爆指針（ガス蒸気防爆1979）』及び『ユーザーのための工場防爆電気設備ガイド（ガス防爆1994）』を熟読の上、適切な設置をしてください。

2 各部の名称と働き

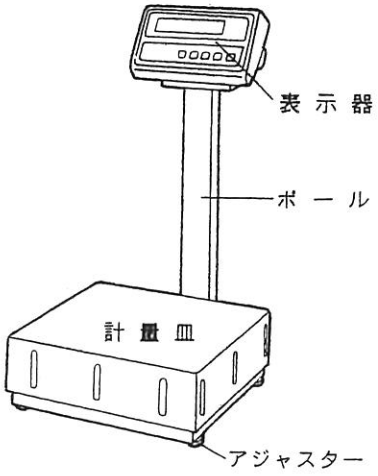
1 外　　観

◆小型はかり（2kg～12kg）

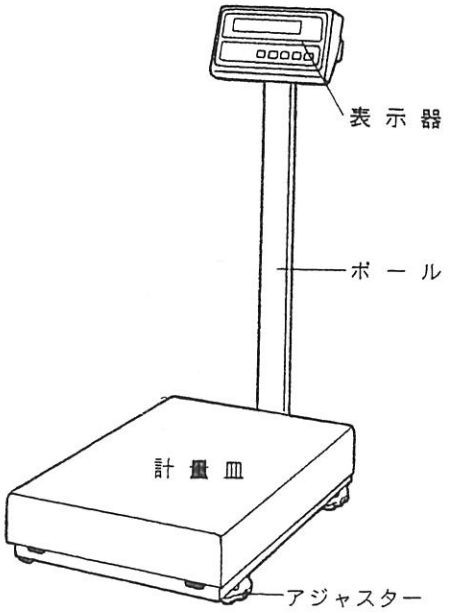


GZⅡ-2000　　GZⅡ-6000 ,GZⅡ-12K
GZⅡ-B2000　　GZⅡ-B6000,GZⅡ-B12K

◆中型はかり（30kg～60kg）



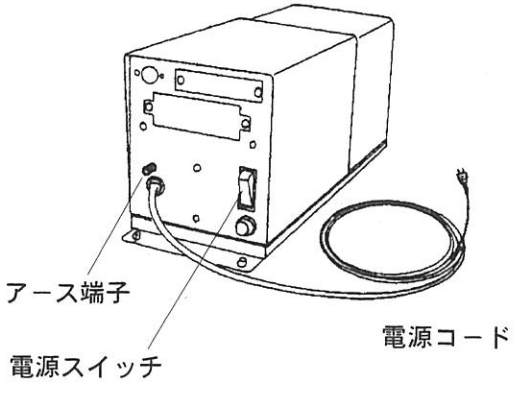
◆大　型（GZ-60KF～GZ-200KF）



※アジャスターは、小型・中型・大型共
前後左右の合計４カ所にあります。

◆電源ボックス

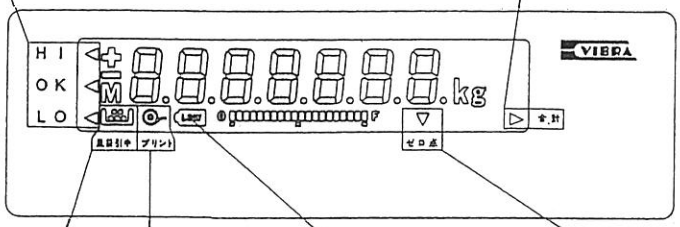
電源ボックス型のみに付属



2 パネル部の詳細

リミット機能の判別表示
各々の箇所に『◀』マークが点き、
判別結果を知らせます。
☞リミット機能：22ページ参照

合 計 表 示
『▶』マークが点いて加算した
合計値(累計)を表示します。
☞加算機能：20ページ参照

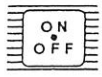


風 袋 引 中
風袋引を行うとこの
マークが点きます。
☞風袋引と計量：
17ページ参照

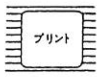
プリント
プリンターの印字され
る時または、出力され
る時にこのマークが点
きます。
☞ファンクション：
28ページ以降参照
乾電池駆動型は未点灯

電池交換
電池容量が無くなるとこ
のマークが点滅します。
☞電池の交換：
15ページ参照
電源ボックス型は未点灯

ゼ ロ 点
正確なゼロ点になると、
このマークが点きます。
☞風袋引と計量：
17ページ参照



はかりの動作をON/OFFするキーです。☞始動と動作確認：16ページ参照
電源ボックス型は、このキーの動作を禁止できます。☞ファンクション：28ページ以降参照



プリンター接続した場合の、印字指令キー。または、出力取付け時の出力指令キーです。
☞ファンクション：28ページ以降参照

ﾘﾐｯﾄｷｰ：リミット機能の開始キーです。☞リミット機能：22ページ以降参照
加算キー：加算(累計)させるキーです。☞加算機能：20ページ以降参照
ファンクションの機能選択中または、リミット機能の設定中は、中断キーとなります。

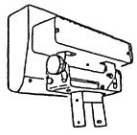
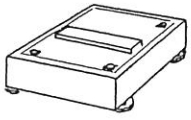
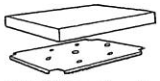
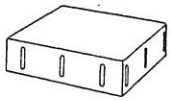
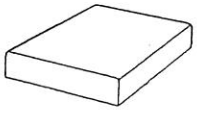
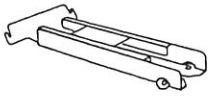
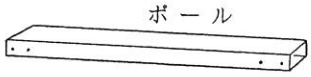
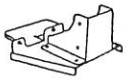
設定キー：リミット機能の限界値の設定キーおよび、数値設定時の桁送りキーです。
☞リミット機能：24ページ以降参照
切換キー：加算した合計(累計)値を表示させるキーです。☞加算機能：20ページ以降参照
ファンクション項目の選択および、終了キーです。☞ファンクション：28ページ以降参照

ゼロ／風袋引キー：表示をゼロにするキーです。。☞風袋引と計量：17ページ参照
ひょう量の約1.5%以上をゼロにすると、風袋引中マークが点きます。

据え付け

1 梱包品の確認

お使いの前に次の型式別専用付属品と、電源部の付属品をご確認ください。万一、不足や損傷が有りましたら、至急お買い上げ店または、当社営業部まで御連絡ください。

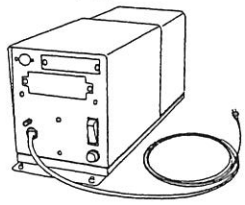
付属品	小型		中型	大型
	丸皿タイプ	角皿タイプ		
表示器			 ※中型・大型のみ、角度調整のできる金具が付きます。	
計量器				
パンベース			この機種は有りません	
計量皿		 サブパンベース		
ポール			 ポール  ボールベース	
レンチ	未付属品		対辺＝4mm	
取扱説明書				

◆電源部の付属品

＊電源ボックス型

①電源ボックス・・・・・・・・１台

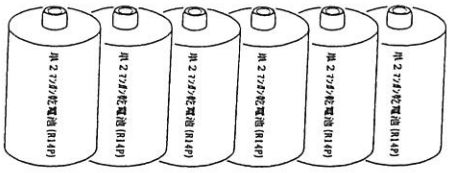
バリア、予備ヒューズ付



②電源ケーブル（５ｍ）・・１本

＊乾電池駆動型

①単２ﾏﾝｶﾞﾝ乾電池（R14P）・・・６本



②小レンチ・・・・・・・・・・・・・・・１本

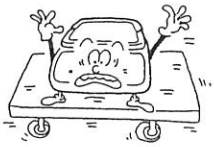
（対辺２㎜）

2 据え付け上の注意

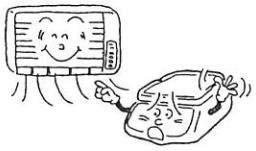
できるかぎり良好な環境を選んでください。特に下記場所での使用は計量誤差が生じたり、故障の原因となりますので避けてください。

1 物を載せると、床が柔らかくゆがむ所。

2 不安定な台や、振動を受けやすい所。



3 冷暖房機器の風があたる所。

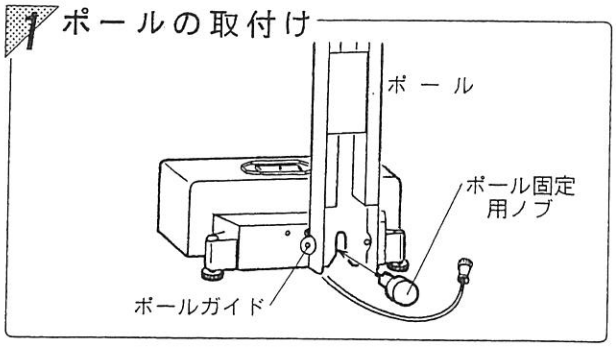


4 直射日光があたる所。

5 周囲の温度・湿度の変化が激しい所。

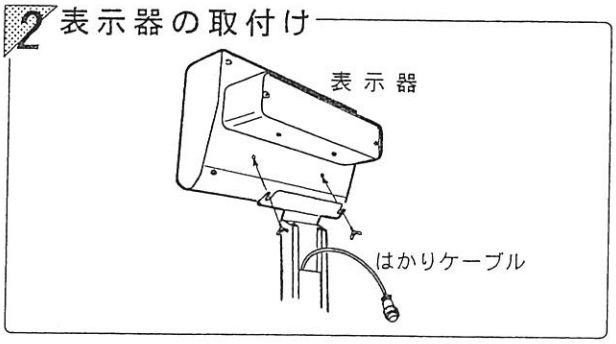
3 小型はかりの組立

1 ポールの取付け



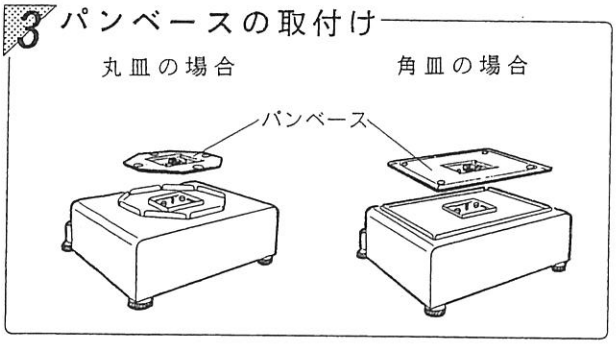
付属のポールを、後部のガイドに合わせノブで取付けます。
ガイドにポールが確実に入らなかたり、ノブの締め付けが甘い場合は、表示部の傾きやフラつきが起こる場合があります。

2 表示器の取付け



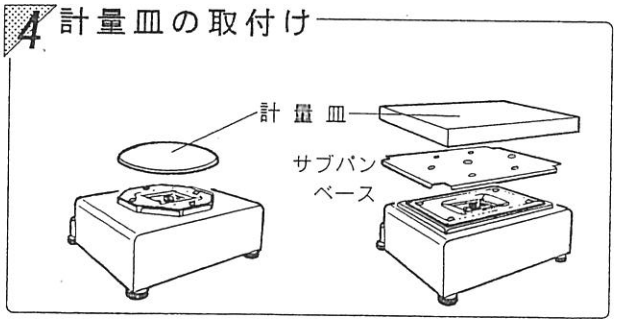
はかりケーブルをポールに通して、表示器をポールに取付けます。はかりケーブルを表示器に接続します。
電源ボックス型は、電源コードも接続します。

3 パンベースの取付け



パンベースを計量器中央のビスに合わせ、コイン等で動かない様に取付けてください。

4 計量皿の取付け

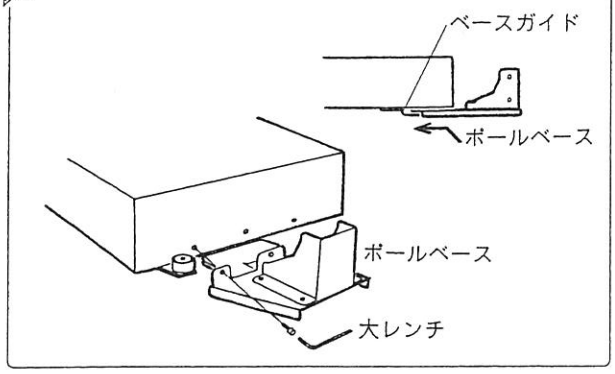


計量皿を取付けます。
角皿の場合は、サブパンベースが計量皿の下に追加されます。

4 中型と大型はかりの組立

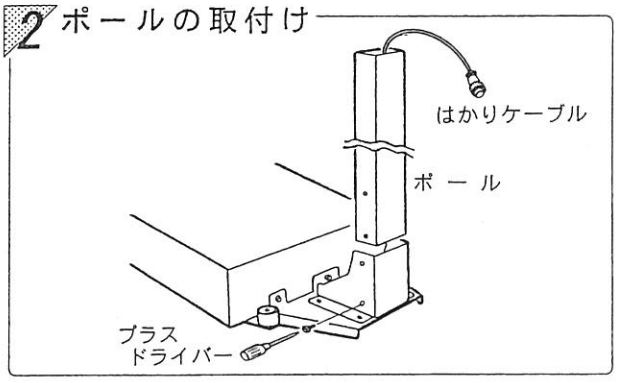
ポールを使用されない場合は、表示ステーを外して次ページの組立を行ってください。

1 ポールベースの取付け



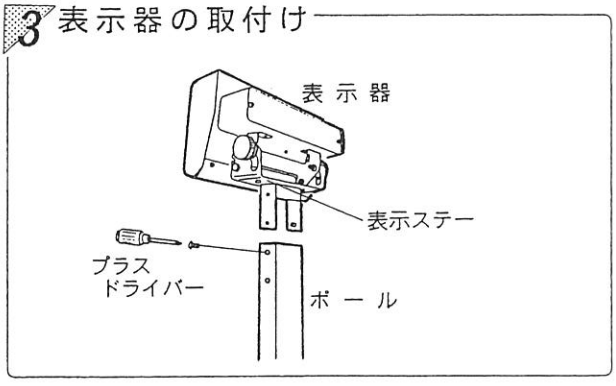
付属のポールベースを計量器の底面のベースガイドに合わせ、付属の大レンチで取付けます。
ガイドにポールベースを確実に差し込まないと、計量器に取付きません。

2 ポールの取付け



はかりケーブルを、ポールの下側(取付け穴幅の広い方)から通します。
次にポールを、ポールベースに取付けます。

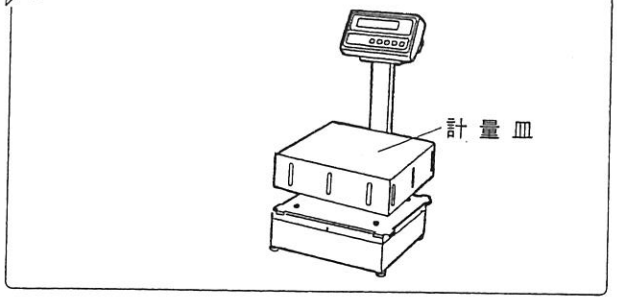
3 表示器の取付け



表示器をポールに取付けて、はかりケーブルを接続します。
電源ボックス型は、電源コードも接続します。

◆中型はかり(30kg～60kg)の場合

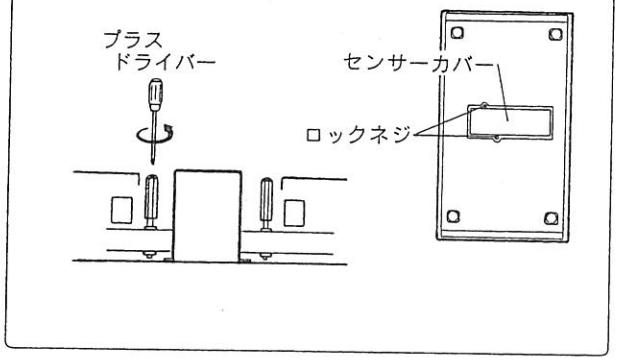
4 計量皿の取付け



計量器に計量皿を載せます。

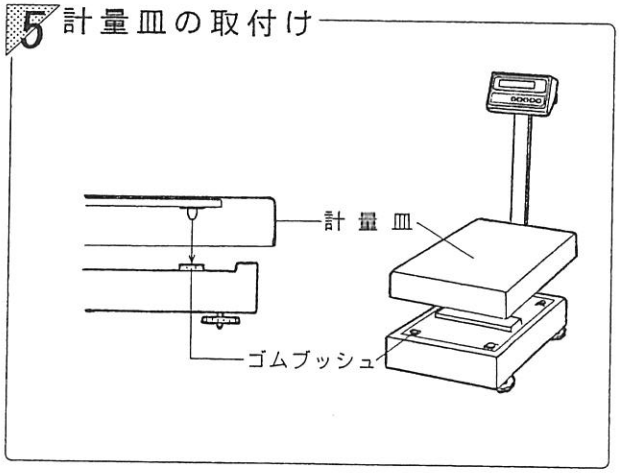
◆大型はかり(60kg～200kg)の場合

4 ロックの解除



計量器中央のセンサーカバーの両側に、赤いロックネジがあります。このネジを、時計と反対方向に止まるまで回すと、ロックが解除されます。

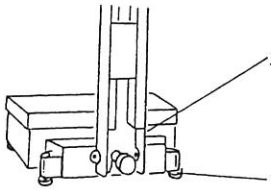
5 計量皿の取付け



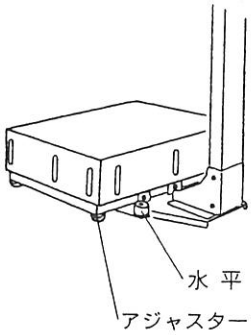
計量器と計量皿のすき間が、前後左右均一になる様に計量皿を載せます。計量皿は、ガイドが計量器のゴムブッシュに挿入されて固定されます。
この挿入が確実でないと、計量皿が傾いたり本体と接触して表示が安定しなくなりますので注意してください。

5 はかりの水平調整

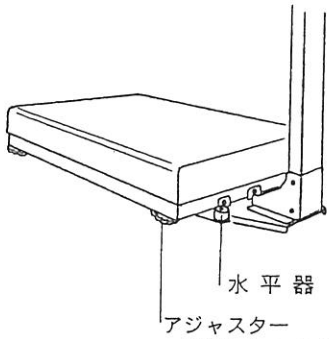
小型はかり (2kg～12kg)

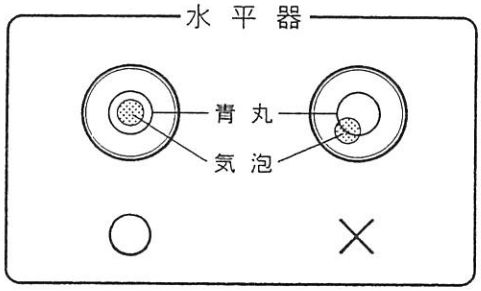


中型はかり (30kg～60kg)



大型はかり (60kg～200kg)





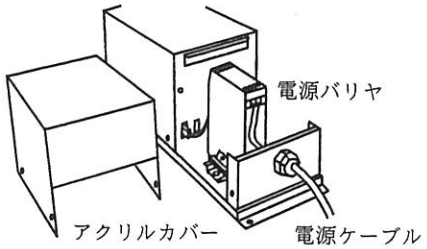
水平器の気泡が青丸の中心に来る様、四隅のアジャスターを回して調整します。
計量器の四隅を押して、アジャスターの浮き(ガタのない状態)を確認してください。

6 電源ボックスの据え付け

電源ボックス型で使用する場合のみです。乾電池駆動型は、次に進んでください。電源ケーブルは、予め設置工事を済ませて用意しておきます。ケーブルの引込部は、危険場所と非危険場所間を通りますので、必ずガス流動防止工事を行ってください。

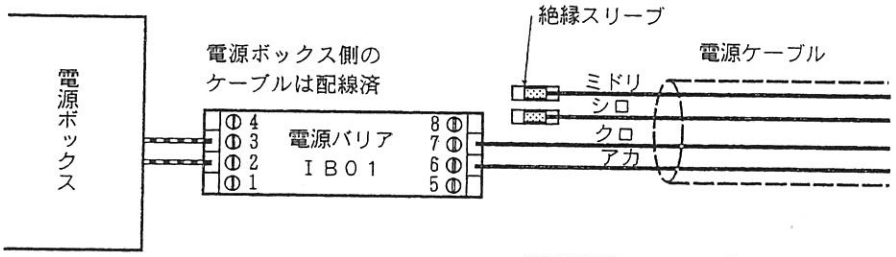
電源ボックスの据え付けは、必ず電源コードをコンセントから抜いて行ってください。

1 電源ケーブルの接続



アクリルカバーを外し、電源ケーブルを接続します。
下図を参照し、誤配線に注意してください。

◆標準仕様のバリア配線図



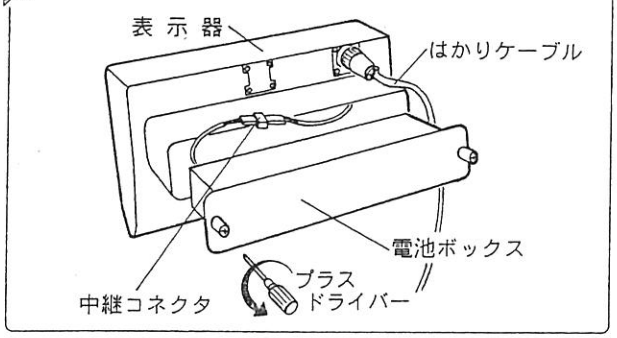
※配線図中の ▬▬ 線は配線済です。

※電源ケーブルをお客様が製作する場合は、当社にお問い合わせください。

7 電池の入れ方（交換）

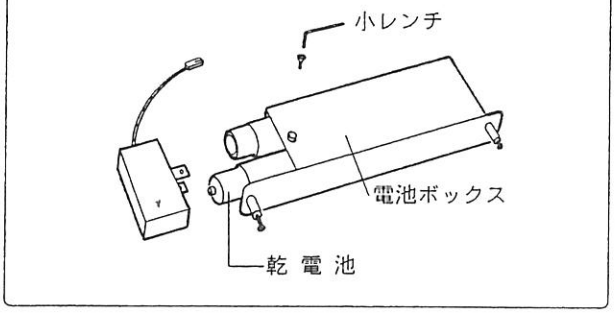
乾電池駆動型で使用する場合のみです。電源ボックス型は、前項に戻ってください。
電池の交換は、必ず非危険場所で作業してください。

1 電池ボックスの取外し



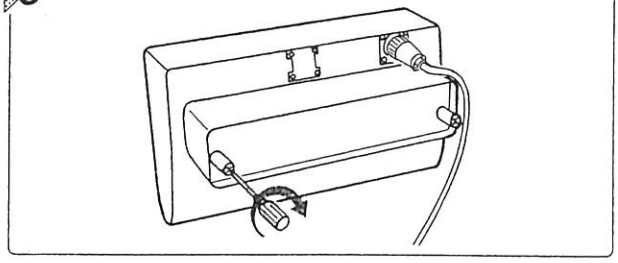
表示器後部のネジを緩めると、電池ボックスが取外せます。
電池ボックスの中継コネクタを外してください。
コードを引っ張ると断線する場合がありますので、コネクタ同士を持って外します。

2 電池を入れる



電池ボックスのフタを、付属の小レンチで外します。
乾電池の向きに注意し、電池を入れて(交換して)ください。
フタを元に戻し、小レンチで取付けます。

3 電池ボックスの取付け



電池ボックスの中継コネクタを接続し、表示器に取付けます。

ご 注 意

使用できる電池は、赤色の単２マンガン乾電池(型式：Ｒ１４Ｐ)のみです。他の電池の使用は防爆性能を保持できませんので、大変危険ですからおやめください。

はかりの基本操作

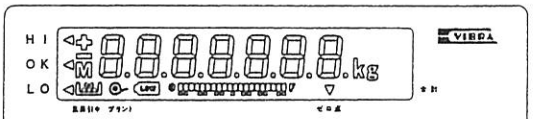
1 始動と動作確認

電源ボックス型は、予め電源ボックスの電源スイッチを入れておいてください。

1 電源を入れる

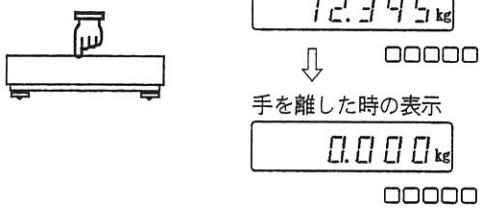
パネルの [ON·OFF] キーを押すと、全表示が点いて動作状態となります。

2 表示の確認



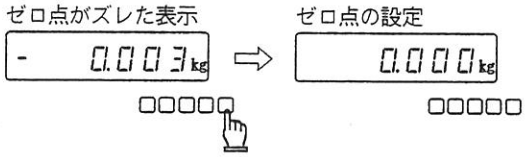
全表示の点灯中に表示部分の欠け、未点灯部分が無い事を確認してください。
数秒後、重量表示のゼロ表示となります。

3 再現性の確認



計量皿を軽く押し、表示が変化する事を確認します。また、手を離すと表示が元に戻る（ゼロ表示となる）事を確認してください。

4 表示をゼロにする

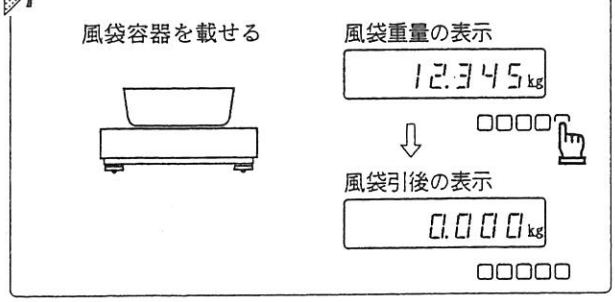


ゼロ表示でない場合は [ゼロ] キーを押すと表示がゼロになります。⇒ゼロ点の設定

※ゼロ点の設定は、計量皿になにも載っていない状態または、ひょう量の約1.5%以内をゼロ表示にします。

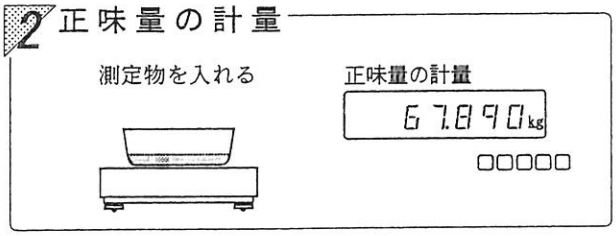
2 風袋引と計量

1 風袋引の操作



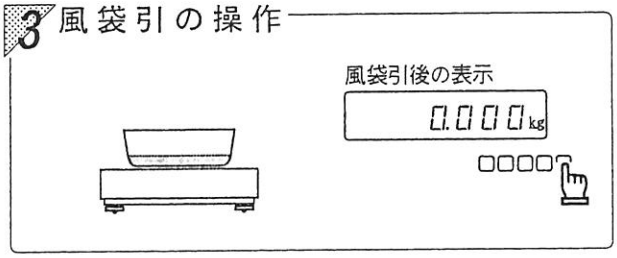
風袋(容器)を載せ [ゼロ 風袋引] キーを押すと、表示がゼロに変わります。⇨風 袋 引

2 正味量の計量



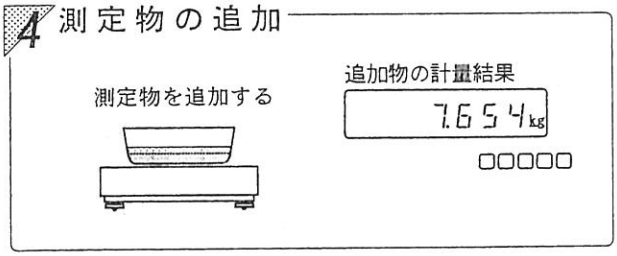
測定物を風袋に入れると、正味重量が表示されます。

3 風袋引の操作



[ゼロ 風袋引] キーを押すと、表示がゼロに変わります。⇨風 袋 引

4 測定物の追加



測定物を追加すると、追加した重量のみが表示されます。

キーポイント

1．正確なゼロ点になると、ゼロ点に『▼』マークが点きます。(変化すると消えます)
2．ひょう量の約1.5%以上をゼロ表示すると、『⊂⊃』風袋引中のマークが点きます。
この時、計れる範囲は狭くなります。　計量範囲＝ひょう量－風袋重量

③ はかり取り扱い上の注意

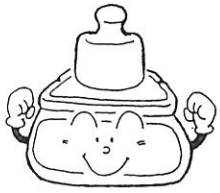
電子はかりは精密機器ですからていねいに取扱ってください。特に下記の取扱いは計量誤差が生じたり、故障の原因となりますので避けてください。

1 品物の載せ降ろしは静かに行い、衝撃を与えないでください。

2 計量皿の下は、物が入らない様にしてください。

3 ひょう量を越えた状態(o-Err表示)で、放置しないでください。
ひょう量＝風袋重量＋計量物

4 据え付け時や長期間経過後は、はかりの精度維持・確認の為に校正する事をお薦めします。
はかりの校正：32ページ以降参照



5 乾電池駆動型で電池を交換する場合は、必ず非危険場所で交換してください。
使用できる乾電池は、赤色の単２マンガン電池(型式:R14P)のみに限定されます。

6 改造する事は、防爆構造の性能を保持できない場合があり大変危険ですから、絶対におやめください。

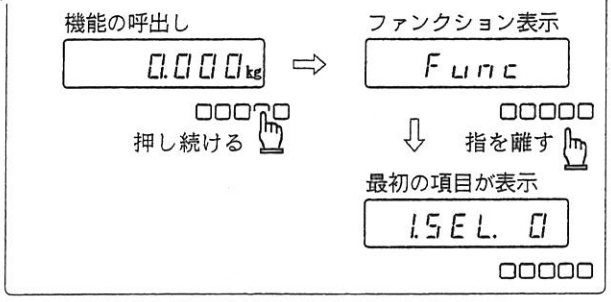
7 誤った取扱いや改造により生じた故障の場合は、保証対象となりません。
☞別紙の保証書に記載してある保証規定を参照してください。

加算機能

加算機能は、小分けして計量した重量結果を合計する機能です。充填・配合等時の合計重量の確認や、計り込み計量時の合計重量の確認ができるので便利な機能です。

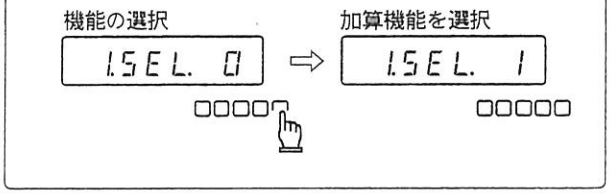
1 加算機能の選択

1 ファンクションの呼出し



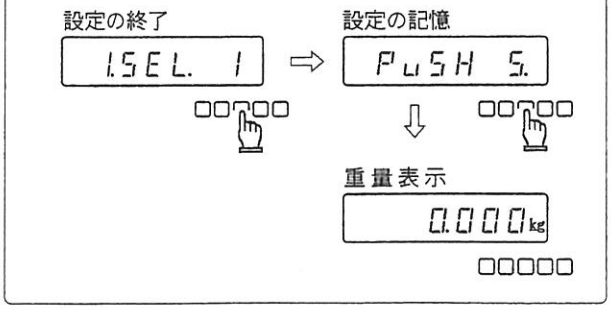
設定 キーを４秒位押し続け表示が『Func』に変わった時に指を離します。
ファンクションの設定となり、最初の項目『1SEL. 0』(機能の選択)が表示されます。
☞詳細：28･29ページ参照

2 加算機能の選択



ゼロ キーを押すと、右端の数値が変わりますので、加算機能『1』を選びます。

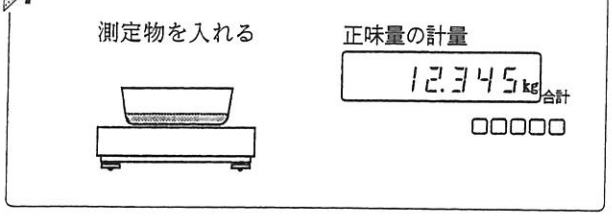
3 設定の終了



加算 キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH S.』表示になります。
再度 加算 キーを押すと設定を終了し、重量表示に戻ります

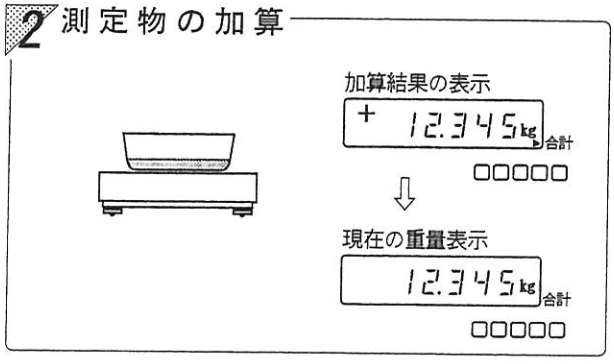
2 加算と合計値表示の操作

1 測定物の計量



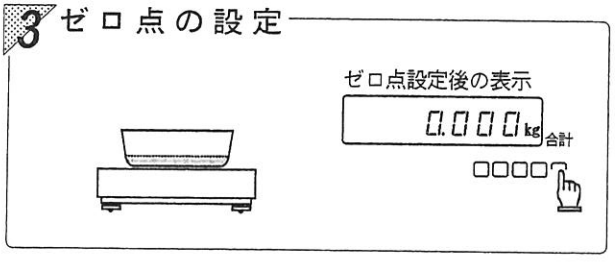
測定物をはかりに載せ、計量します。

2 測定物の加算



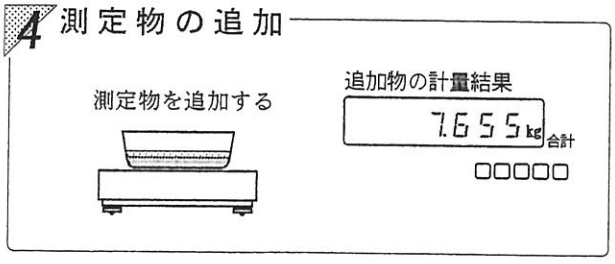
加算 キーを押します。
合計表示に『▶』マークが点いて、加算結果を一時的に表示します。約３秒後に、元の表示に戻ります。

3 ゼロ点の設定



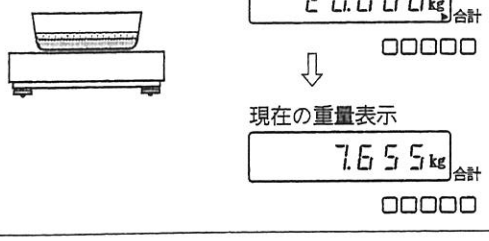
容器を載せたまま追加する場合は、 ゼロ キーを押してゼロ表示にします。

4 測定物の追加



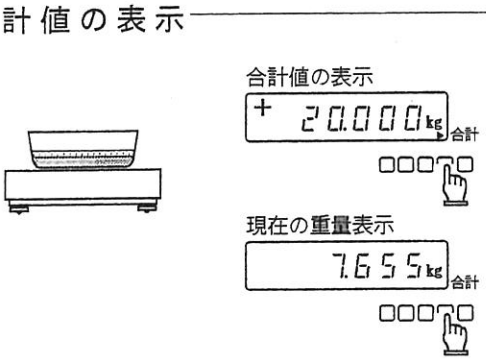
測定物を追加すると、追加した重量のみが表示されます。

5 測定物の加算



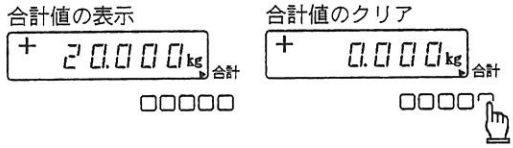
加算 キーを押します。
合計表示に『▶』マークが点いて、加算結果を一時的に表示します。約３秒後に、元の表示に戻ります。

6 合計値の表示



切換 キーを押します。
合計表示に『▶』マークが点いて、合計値を表示します。
再度 切換 キーを押しますと、元の表示に戻ります。

7 合計値のクリア



合計値の表示をしている時に、
ゼロ キーを押します。
表示がゼロになり、合計値がクリアされます。

キーポイント

1．加算操作は、表示がゼロにならないと出来ません。一度測定物を降ろしてから次の測定物を加算する場合は、ゼロ表示になる事を確認してください。
2．加算作業の終了時には、 ゼロ キーを押して合計値をクリアします。他の計量物に変わった時、合計を一緒にしてしまう間違いが防げます。
3．加算 キーを押した時の『ｔ－Ｅｒｒ』表示は、加算操作を二重に行った場合と、マイナスの加算をした場合または、ゼロ加算をした場合に表示されます。

リミット機能

リミット機能とは、はかりに上下限値を覚えさせ、測定した結果を判別する機能です。良品・不良品を選別するような作業や、一定量をはかり込む場合に大変便利な機能です。

◆限界値の入力方法

次の２つの方法があり、どちらの方法からでも併用して操作ができます。

①実量設定法：上下限の現品サンプルをはかりに載せて、その重量を記憶します。

②数値設定法：キーの操作で数値を入力して、その値を記憶します。

※入力した限界値はメモリーされていますので、電源を落しても消えません。

※判別結果は、パネルのＨＩ，ＯＫ，ＬＯ表示に『◀』マークが点いて知らせます。

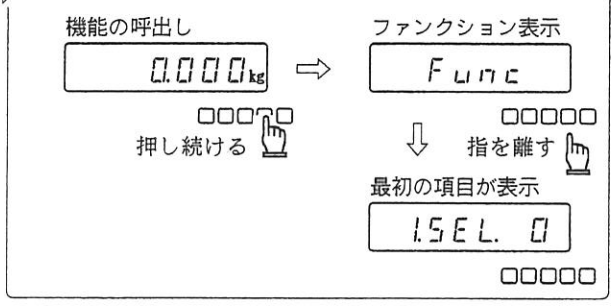
ＨＩ：測定値が上限値より大きい……上限値＜測定値

ＯＫ：測定値が限界値の範囲内……上限値≧測定値≧下限値

ＬＯ：測定値が下限値より少ない……下限値＞測定値

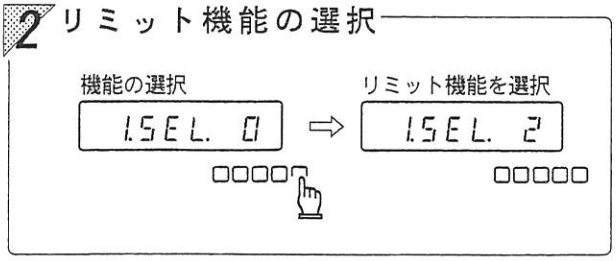
1 リミット機能の選択

1 ファンクションの呼出し



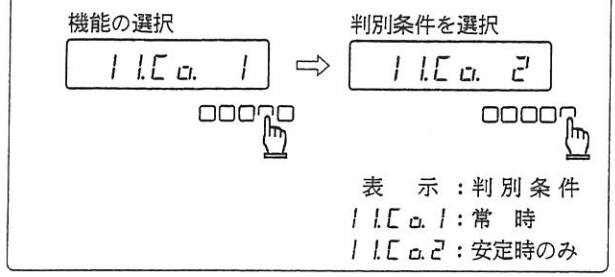
設定 キーを４秒位押し続け表示が『Ｆｕｎｃ』に変わった時に指を離します。
ファンクションの設定となり、最初の項目『1.SEL. 0』(機能の選択)が表示されます。
(☞詳細、28･29ページ参照)

2 リミット機能の選択



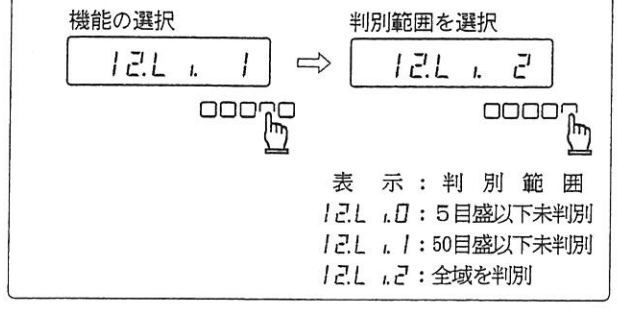
ゼロ キーを押すと、右端の数値が変わりますので、リミット機能『2』を選びます。

3 判別条件の選択



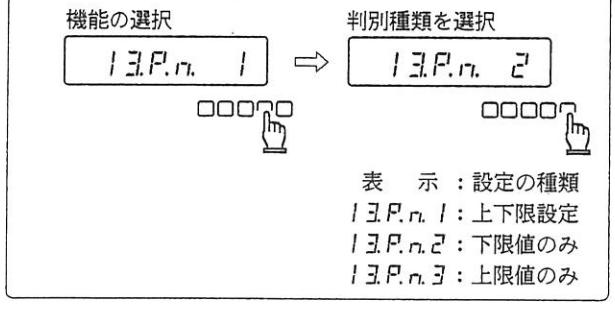
設定 キーを押すと、次の項目「判別条件」に変わります。
ゼロ キーを押すと、右端の数値が変わるので希望の設定状態を選びます。

4 判別範囲の選択



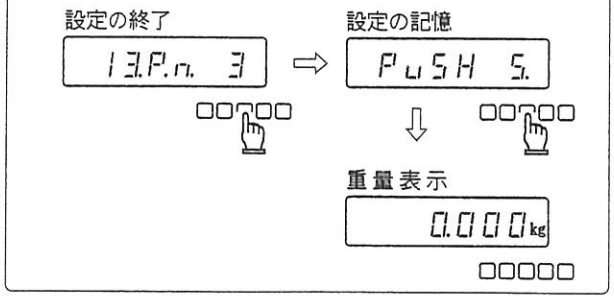
設定 キーを押すと、次の項目「判別範囲」に変わります。
ゼロ キーを押すと、右端の数値が変わるので希望の設定状態を選びます。

5 設定の種類選択



設定 キーを押すと、次の項目「設定の種類」に変わります。
ゼロ キーを押すと、右端の数値が変わるので希望の設定状態を選びます。

6 設定の終了

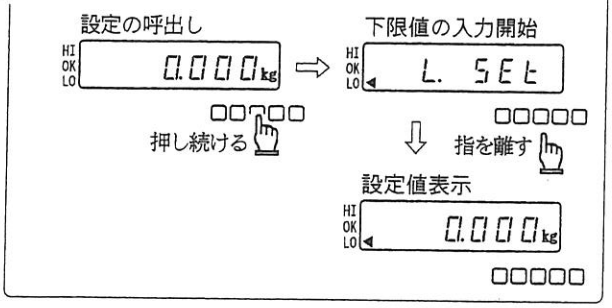


リミット キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH 5.』表示になります。
再度 リミット キーを押すと設定を終了し、重量表示に戻ります。

2 実量設定法

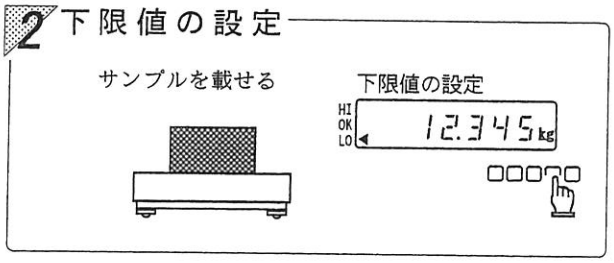
表示がゼロでない場合は、［ゼロ］キーでゼロ表示にしてから始めてください。
風袋を使う場合も、風袋引をしてゼロ表示にしてから始めます。

1 限界値の設定開始



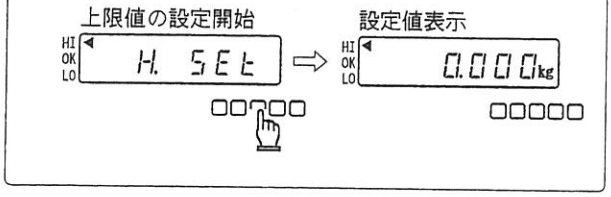
［リミット］キーを３秒位押し続け『L. SEt』表示となった時に指を離しますと、下限値の設定となります。
判別表示「ＬＯ」に『◀』マークが点き、表示が点滅します。

2 下限値の設定



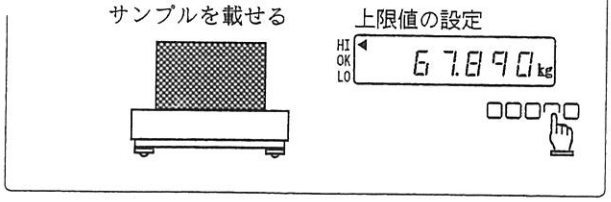
下限値のサンプルをはかりに載せ、［設定］キーを押します。
表示が一時消え、下限値を記憶すると点滅表示になります。

3 上限値の設定開始

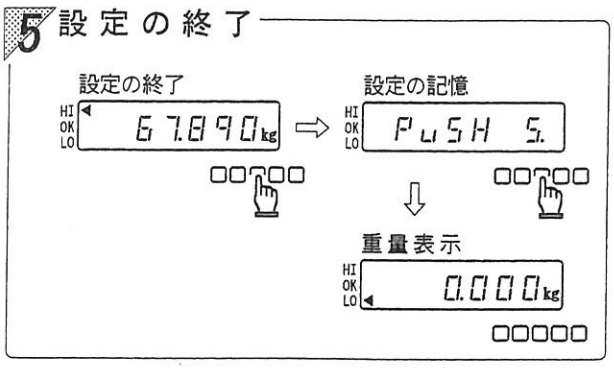


［リミット］キーを押すと、上限値の設定に変わります。
『H. SEt』が一時表示され判別表示の「ＨＩ」に『◀』マークが移ります。

4 上限値の設定



上限値のサンプルをはかりに載せ、［設定］キーを押します。
表示が一時消え、上限値を記憶すると点滅表示になります。



リミット キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH 5.』表示になります。
再度 リミット キーを押すと設定を終了し、重量表示に戻ります。

キーポイント

1．判別種類の設定状態(下限値のみ等)により、操作方法が一部異なります。
下限値のみを設定⇨操作３～４を飛ばし、操作５で終了となります。
上限値のみを設定⇨操作１で『H. SEt』表示され、操作２が無くなります。

2．既に限界値を入力してある場合は、『L. SEt』または『H. SEt』後にその設定値が表示されます。新たに限界値の設定を行うと、数値が変わります。

3．限界値をマイナスの値で設定した場合は、リミット機能の詳細項目の判別範囲をマイナス部を含む全域判別を設定します。未設定の場合は、判別を行いません。
☞ファンクションの項目と働き：28･29ページを参照

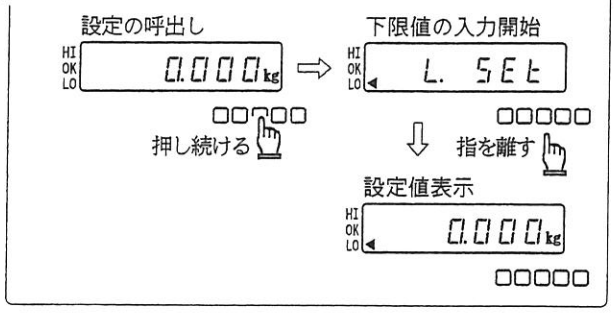
4．判別表示「ＨＩ／ＯＫ／ＬＯ」の３カ所全てに『◀』マークが点いた場合は、下限値が上限値より大きい値で設定していますので、操作をやり直してください。

5．実量設定法の操作途中、数値設定法に変えることができます。
実量設定で限界値を設定した後、次ページの数値設定法の操作２に移ると、数値設定法に変わります。実量設定法で設定した値を修正する時に便利です。

6．数値設定法の操作途中、実量設定法に変えることもできます。
数値設定法で限界値の入力を終了させた後、サンプルを載せて 設定 キーを押すと実量設定に変わります。

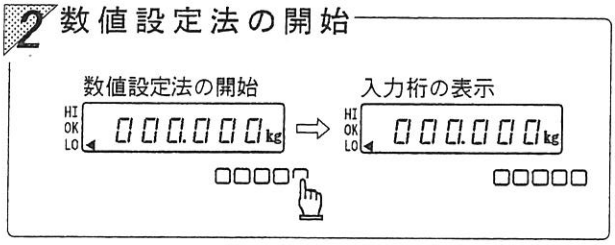
3 数値設定法

1 限界値の設定開始



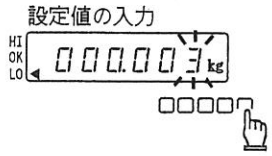
リミット キーを３秒位押し続け『L. SEt』表示となった時に指を離しますと、下限値の設定となります。
判別表示「ＬＯ」に『◀』マークが点き、表示が点滅します。

2 数値設定法の開始



ゼロ キーを押すと、全桁が表示され数値設定法となり、最小桁のみが点滅し、入力出来る桁である事を知らせます。

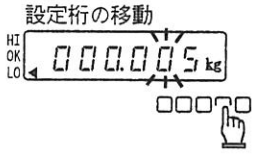
3 設定値の入力



更に ゼロ キーを押すと、数値が押す度に変わります。
設定する値を選んでください。

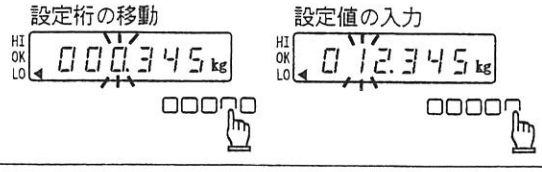
0⇨1⇨2⇨3・・・・8⇨9

4 設定桁の移動



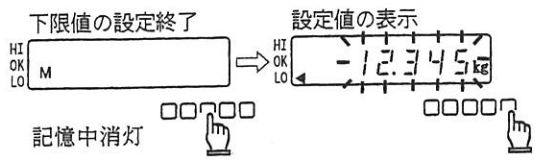
設定 キーを押すと、点滅表示が左に移り、入力する桁が変わります。
最上位桁は、ﾌﾟﾗｽ･ﾏｲﾏｽ(＋・－)の設定となります。

5 下限値の入力



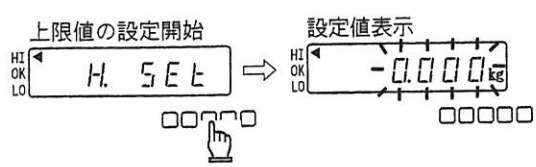
３・４の操作を繰り返します。
設定 キーで設定桁を選び、
ゼロ キーで設定値を選んで、下限値を入力します。

6 下限値の設定終了



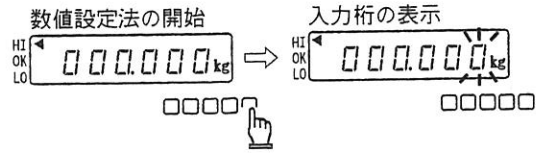
下限値の入力終了後、 リミット キーを押します。
表示が一時消え、下限値を記憶すると点滅表示になります。

7 上限値の設定開始



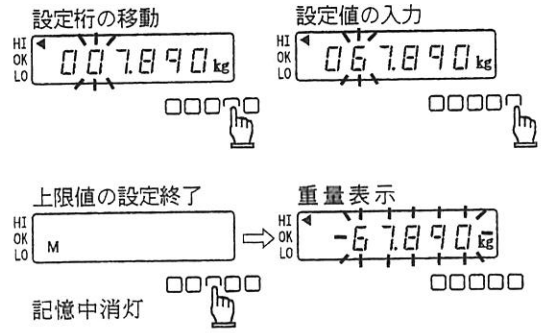
リミット キーを押すと、上限値の設定に変わります。
『H. SEt』が一時表示され判別表示の「ＨＩ」に『◀』マークが移ります。

8 数値設定法の開始



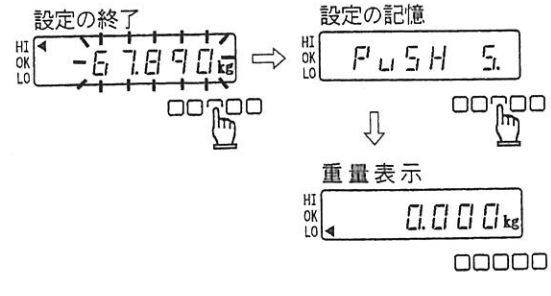
ゼロ キーを押すと、全桁が表示され数値設定法となり、最小桁のみが点滅し、入力出来る桁である事を知らせます。

9 上限値の入力と設定終了



下限値の入力と同様に 設定 キーで設定桁を選び、 ゼロ キーで設定値を選んで、上限値を入力します。
上限値の入力終了後、 リミット キーを押します。
表示が一時消え、下限値を記憶すると点滅表示になります。

10 設定の終了



リミット キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH S.』表示になります。
再度 リミット キーを押すと、設定を終了し、重量表示に戻ります。

ファンクション

このはかりは下記の機能を持っています。この機能を『ファンクション』といい、自分の作業状態に合わせることができます。☞設定値の確認と変更：30･31ページ参照

1 ファンクション項目と働き

1-1. 基本機能の項目

※ 網掛け部が出荷時の設定です。

機能項目	表示状態		機能の働き				
付加機能	1.SEL.	0	OFF：機能停止				
		1	加算機能を働かせる				
		2	リミット機能を働かせる⇒次ページの詳細に続く				
オートゼロ (ゼロトラッキング)	2. A0	0	OFF：停止	※ゼロ点が僅かに変動した場合、正確なゼロ表示に自動調整する機能です。			
		1	ON ：動作				
応答速度	3. r E.	0	表示速度	速い ↕ 遅い	※設定値を『0，1』にすると、チラつく場合があります。 ※風・振動の影響を受ける場合は、設定値を『4，または 5』にしてください。		
		1					
		2					
		3					
		4					
		5					
安定判別	4. S.d.	1	判別精度	緩やか ↕ 厳密	判別時間	速い ↕ 遅い	※測定の安定・不安定状態を単位表示で知らせます。 ※単位表示の点滅は不安定状態です。
		2					
		3					
		4					
オートパワーオフ	5. A.P.	0	バッテリー駆動タイプの場合のみ	OFF：機能を解除(連続使用)			
		1		ON ：約３分後自動的に電源を切る			
インターフェース	5. I.F.	0	未使用（出力停止）				
		1	周辺機器(CSP-16or193,NAC-2or3)を使用する				
		2	外部機器・パソコン等を使いパリティ機能を働かせる				
外部風袋引	6. E.t.	1	接点入力により動作する				
		2	パソコン等からの入力コマンドにより動作する				
ON/OFFキーコントロール	7. P.c.	0	ON/OFFキーが働かない	※パネルのON/OFFキーの動作を選択できます。			
		1	ON/OFFキーでON/OFF出来る				

※ バッテリー駆動型は、インターフェース以降の設定機能がありません。

※ 電源ボックス型は、オートパワーオフのみ設定機能がありません。

※ 付加機能『2 』と、インターフェース『 1 』の場合のみ次のページに続きます。

1-2. リミット機能の詳細項目

付加機能『 I.SEL. 2』を選択すると、オートゼロの間に下記項目が表示されます。

機能項目	表示状態		機能の設定内容
判別条件	I I.C.a.	1	常時判別する（不安定時も判別）
		2	安定時のみ判別（不安定時は判別しない）
判別範囲	I2.L i.	0	＋５目盛以下(マイナス部を含む)を判別しない
		1	＋５０目盛以下(　　〃　　)を判別しない
		2	マイナス部を含む全域を判別する
判別種類	I3.P.n.	1	上下限値を設定する
		2	下限値のみを設定する
		3	上限値のみを設定する

※ 網掛け部が出荷時の設定です。

1-3. インターフェースの詳細項目

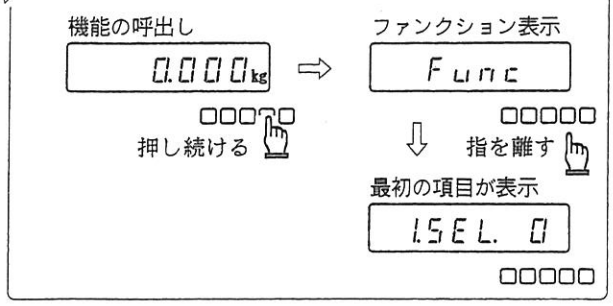
ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ『S　IF　1』を選択すると『S2.bL.』で終了し、次項目に進みます。
ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ『S　IF　2』を選択すると『S3.PA.』まで表示し、次項目に進みます。

機能項目	表示状態		機能の設定内容	
出力コントロール	S I.o.c.	0	出力停止	
		1	常時連続出力（データ間隔0.1～1秒）	
		2	安定時連続出力（不安定時出力停止）	
		3	[プリント]キーを押すと、１回出力	
		4	安定時１回出力、計量物を取り去り表示がゼロ以下になり物を載せると次回出力可能	
		5	安定時1回出力・不安定時出力停止、物を載せ変えなくても再度安定時（ゼロを含む）1回出力	
		6	安定時1回出力・不安定時連続出力、　〃　1回出力後の安定時は出力が停止	
		7	[プリント]キーを押すと、安定時１回出力	
ボーレート	S2.bL.	1	1200bps	
		2	2400bps	
		3	4800bps	
パリティビット	S3.PA.	0	未使用（未設定）	『S. I.F. 2』の設定時のみ表示されます
		1	奇数パリティ	
		2	偶数パリティ	

※ 網掛け部が出荷時の設定です。

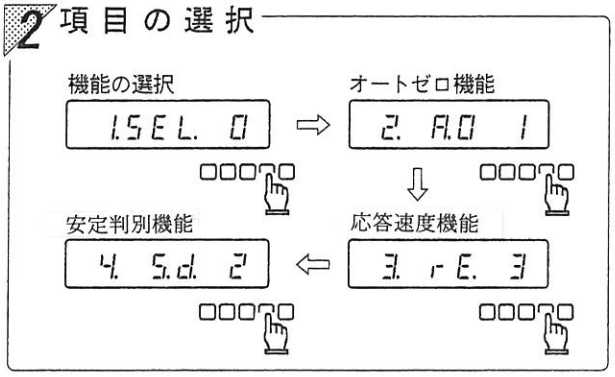
2 設定値の確認

1 ファンクションの呼出し



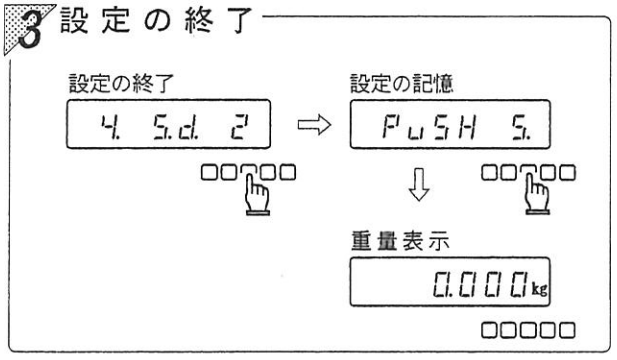
設定 キーを４秒位押し続け表示が『Func』に変わった時に指を離します。
ファンクションの設定となり、最初の項目『1.SEL. 0』(機能の選択)が表示されます。
☞機能詳細：28･29ページ参照

2 項目の選択



設定 キーを押すと、次の項目が表示されます。
キーを押す度に、項目を順次表示していきます。
☞機能詳細：28･29ページ参照

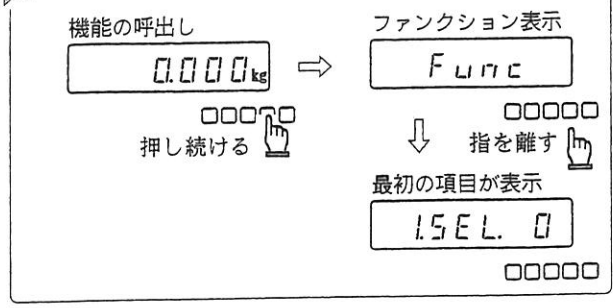
3 設定の終了



リミット キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH 5.』表示になります。
再度 リミット キーを押すと設定を終了し、重量表示に戻ります。

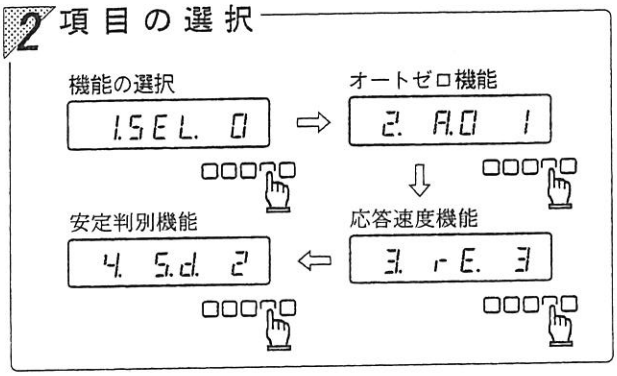
3 設定内容の変更

1 ファンクションの呼出し



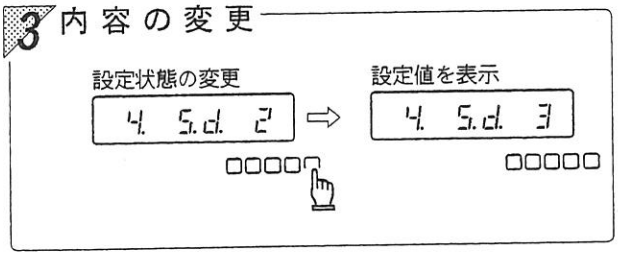
設定 キーを４秒位押し続け表示が『Func』に変わった時に指を離します。
ファンクションの設定となり、最初の項目『1SEL. 0』(機能の選択)が表示されます。
☞詳細：28･29ページ参照

2 項目の選択



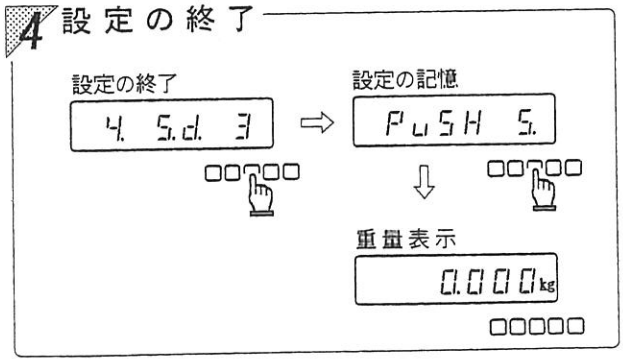
設定 キーを押すと、次の項目が表示されます。
設定 キーを押す度に項目が順次表示されるので、設定を変更する項目を選びます。
☞詳細：28･29ページ参照

3 内容の変更



ゼロ キーを押すと右端の数値が変わり、設定状態が変わります。希望の設定状態を選んでください。

4 設定の終了



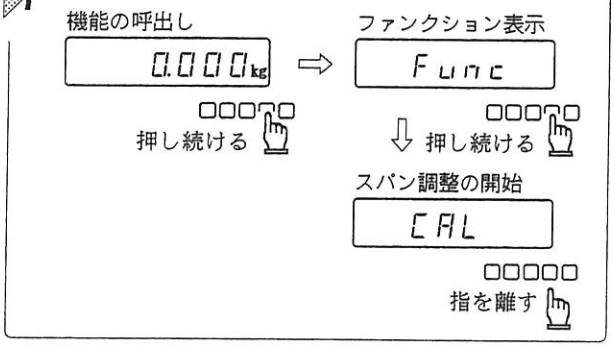
リミット キーを押すと設定の記憶となり、『PuSH S.』表示になります。
再度 リミット キーを押すと設定を終了し、重量表示に戻ります。

はかりの校正

電子はかりは、常に重力加速度［G］の影響を受けています。地理的位置や海抜の違いによりこの［G］が異なるため、据え付け場所での校正が必要です。
また長期間経過後や、正確な表示値とならない場合なども校正が必要です。
この校正することを「スパン調整をする」といいます。

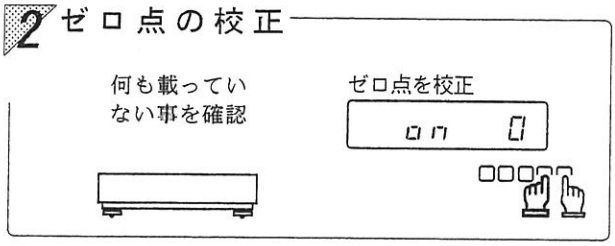
1 スパン調整をする

1 スパン調整の呼出し



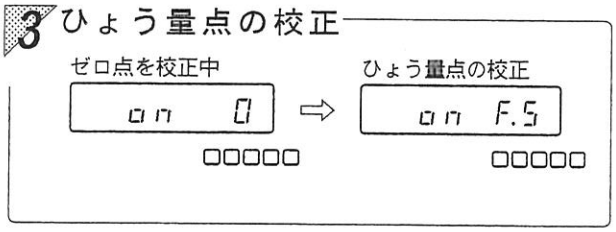
設定 キーを、『Func』表示から『CAL』表示に変わるまで(6秒位)押し続けると、スパン調整の機能となります。

2 ゼロ点の校正



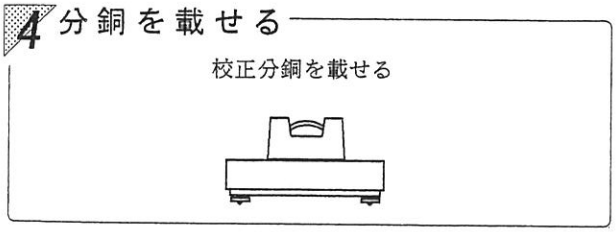
ゼロ キーを押したまま、
設定 キー押し、両方同時に離します。表示が点滅し、ゼロ点を校正します。

3 ひょう量点の校正



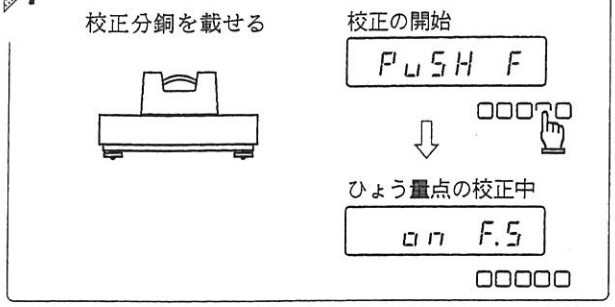
ゼロ点の校正が終わると自動的に表示が変わり、ひょう量点の校正に移ります。

4 分銅を載せる



＊小型はかりの場合
校正分銅を計量皿の中心に静かに載せます。
小型はかりは、ひょう量点を自動校正します。

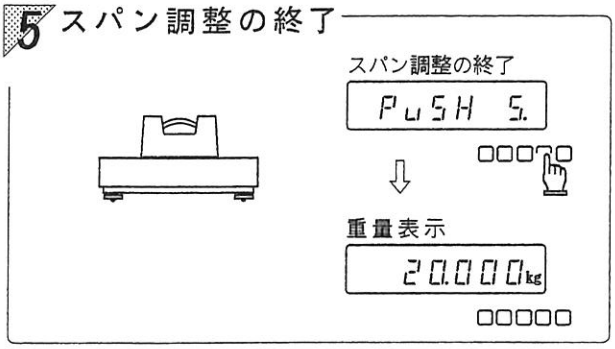
4 分銅を載せる



＊中型・大型はかりの場合

分銅を載ると『PuSH F.』表示となるので、分銅を載せ、[設定]キーを押します。『on F.S』表示の点滅に変わり、ひょう量点を自動校正します。

5 スパン調整の終了



ひょう量点の校正が終わると、『PuSH S.』表示に変わりスパン値の記憶となります。[設定]キーを押すと、校正が終わり元の重量表示に戻ります。

キーポイント

1．操作方法「２」のキーを両方同時に押す操作の時、[設定]キーを先に押しますと操作が中断されます。

2．使用する分銅の総重量は、ひょう量付近となるように選んでください。
（スパン調整は、ひょう量の1/2以上の分銅で行えます。）

3．校正に使用する分銅は、１級基準分銅（または同等の精度）を使用してください。
精度が不足すると、正確な表示とならなかったり、下記エラー表示になります。

4．次のエラー表示となった場合は、使用した分銅が適していません。
分銅を確認して、最初からやり直してください。
①『o-Err』：分銅がはかりのひょう量を越えました。
②『1-Err』：分銅がはかりのひょう量の１／２以下です。
③『2-Err』：校正する前と校正した値が１％以上の誤差が有ります。

※分銅が正しいものでもエラー表示となる場合、はかり機構部の破損が考えられますのでご購入店または、当社営業部かサービス員まで御連絡ください。

故障と思われたら

症　　状	原　　因	処　　置
リミット機能 が働かない	＊リミット機能が選択されていない。 ＊限界値が入力されていない。 ＊限界値の入力ミス。	22P：機能の選択。 24P：設定法を実施 24P：操作の確認。
加算機能 が働かない	＊加算機能が選択されていない。 ＊合計モードになっている。	19P：機能の選択。 20P：操作の確認。
表示が点灯しない	＊はかりの電源が切れている。 ◎電源ケーブルの接続ミス。 ○オートパワーオフ機能の働きで表示が消えた。	16P：[ON OFF]キーを押す。 14P：バリヤの接続確認 28P：[ON OFF]キーを押す。
『LOW』マーク点滅	○乾電池の寿命が切れてきた。 残量約６時間程度でマークが点滅。	15P：乾電池の交換。
表示がなかなか 安定しない。	＊風、振動の影響を受けている。 ＊計量皿や風袋または、計る物が何かに触れている。 ＊はかりの載せ台がふらつく。	９P：据付け場所確認。 または、ﾌｧﾝｸｼｮﾝの設定見直し。
測定値に 誤差がでる	＊風袋引の操作を間違えている。 ＊アジャスターが浮き、水平が正しく調整されていない。 ＊長時間経過または、使用地域を変更で表示値が変化した。	17P：風袋引の見直し。 13P：水平状態の確認。 32P：はかりの校正。
ひょう量まで計れない o-Err 表示 (オーエラー)	＊風袋込みの重量がひょう量を越えた。 計量範囲＝風袋重量＋品物の重量。 風袋に問題がない場合。	18P：風袋の見直し。 ☎：機構部の破損!!
u-Err 表示 (ユーエラー)	＊異物が計量皿または、パンベースを持ち上げている。 計量皿の周囲に問題がない場合。	18P：計量皿の周囲を確認。 ☎：機構部の破損!!
b-Err 表示 (ビーエラー)	＊静電気やノイズの影響を受けた。 ＊はかりの電気部が故障した。	☎：電気部の故障。

＜記号の意味＞　＊：共 通 事 項　　10P：参照ページを示します。
○：乾電池駆動型のみ　　☎：ご購入店か、当社営業又はサービスに御連絡ください。
◎：電源ボックス型のみ

使用できる対象ガス

アクリルアルデヒド
アクリル酸エチル
アクリル酸メチル
アクリロニトリル
アセチルアセトン
アセトアルデヒド
アセト酢酸エチル
アセトニトリル
アセトン
アニリン
2-アミノエタノール
アンフェタミン
アンモニア
一酸化炭素
エタノール
エタン
エタンチオール
エチルシクロブタン
エチルシクロヘキサン
エチルシクロペンタン
エチルベンゼン
エチルメチルエーテル
エチルメチルケトン
エチレン
エチレンオキシド
2-エトキシエタノール
エピクロロヒドリン
1,2-エポキシプロパン
塩化アセチル
塩化アリル
塩化エチル
塩化ビニル
塩化ブチル
塩化プロピル
塩化ベンジル
塩化メチル
1-オクタノール
オクタン
ギ酸エチル
ギ酸メチル
O-キシレン
クメン
O-クレゾール
クロトンアルデヒト
2-クロロエタノール
クロロベンゼン
酢　　酸
酢酸エチル
酢酸ビニル
酢酸ブチル
酢酸プロピル
酢酸ペンチル
酢酸メチル
ジアセトンアルコール
シアン化水素
ジアミノエタン
2-ジエチルアミノエタノール
ジエチルアミン
ジエチルエーテル
1,4-ジオキサン
1,3-ジオキソラン
シクロブタン
シクロプロパン
シクロヘキサノール
シクロヘキサノン
シクロヘキサン
シクロヘキシルアミン
シクロヘプタン
シクロペンタン
1,2-ジクロロエタン
1,1-ジクロロエチレン
1,2-ジクロロプロパン
O-ジクロロベンゼン
ジクロロメタン
ジブチルエーテル
ジプロピルエーテル
ジメチルアミン
N,N-ジメチルアニリン
ジメチルエーテル
P-シメン
臭化エチル
臭化ブチル
硝酸イソプロピル
スチレン
チオフェン
trans-デカヒドロナフタレン
デカン
テトラヒドロチオフェン
テトラヒドロフラン
テトラヒドロフルフリルアルコール
テトラフロロエチレン
トリエチルアミン
1,3,5-トリオキサン
トリメチルアミン
1,2,4-トリメチルベンゼン
o-トルイジン
トルエン
ナフタレン
ニトロエタン
ニトロメタン
ノナノール
ノナン
ピリジン
フェノール
1,3-ブタジエン
1-ブタノール
ブタン
N-ブチルアミン
ブチルグリコレート
ブチルメチルケトン
フラン
1-プロパノール
プロパン
プロピルアミン
プロピルメチルケトン
プロピルメルカプタン
プロピレン
プロピン
1-ヘキサノール
ヘキサン
2-ヘプタノール
2-ヘプタノン
ヘプタン
ベンゼン
ベンゾトリフルオリド
1-ペンタノール
ペンタン
メタアルデヒド
メタクリル酸エチル
メタクリル酸メチル
メタノール
メタン
メチルアミン
メチルシクロブタン
メチルシクロヘキサノール
メチルシクロヘキサン
メチルシクロペンタン
α- メチルスチレン
ガソリン
ケロシン
コークス炉ガス
コールタールナフサ
石油ナフサ
テレピン油

※㈱産業安全技術協会出版『防爆構造電気機械器具型式検定ガイド』から抜粋。

標準仕様

1 共通仕様

1．防 爆 構 造……ＥｘｉａⅡＢＴ４

2．測 定 方 式……誘電式（音叉振動式）

3．風袋引範囲 ……ひょう量まで可能

4．表 示 器……最大７桁の液晶表示(文字高=17mm、文字幅=9mm、5°斜体)

5．はかりの校正……セミオートスパン調整

6．過負荷時表示……ひょう量＋９目盛超過時『o - Err』(ｵｰﾊﾞｰｴﾗｰ)表示

7．温・湿度範囲……０～４０℃、８０％ＲＨ以下

8．電 源 ……電源ボックス型＝ＡＣ１００Ｖ(電源バリヤ付)
乾電池駆動型＝単２マンガン乾電池（Ｒ１４Ｐ）×６本

9．オプション

① 表示部壁掛け金具：表示部を壁に掛ける場合の取付け金具。

② 表示部スタンド ：表示部を机等に置く場合の取付け金具。

※出力オプションは付きません。

2 機種構成

2-1. 電源ボックス型

タイプ	機種名	ひょう量／最小表示	計量皿寸法	自重	はかりケーブル長
小型	GZⅡ－2000N	2 kg／0.01g	170φ	約8kg	1m
	GZⅡ－6000N	6 kg／0.1g	250×202	約9kg	
	GZⅡ－12KN	12 kg／0.2g			
中型	GZⅡ－30KN	30 kg／1g	360×326	約17kg	2m
	GZⅡ－60KN	60 kg／1g			
大型	GZⅡ－60KFN	60 kg／2g	400×610	約36kg	3m
	GZⅡ－100KFN	100 kg／5g			
	GZⅡ－200KFN	200 kg／10g			

※電源ボックスは、自重に含みません。
※小型の自重は、表示部と計量部および、ポールの合計重量です。
※中型および大型の自重は、表示部と計量部の合計重量です。

2-2. 電池駆動型

タイプ	機種名	ひょう量／最小表示	計量皿寸法	自重	はかりケーブル長
小型	GZⅡ－B2000	2 kg／0.01g	170φ	約9kg	1m
	GZⅡ－B6000	6 kg／0.1g	250×202	約10kg	
	GZⅡ－B12K	12 kg／0.2g			
中型	GZⅡ－B30K	30 kg／1g	360×326	約18kg	2m
	GZⅡ－B60K	60 kg／1g			
大型	GZⅡ－B60KF	60 kg／2g	400×610	約37kg	3m
	GZⅡ－B100KF	100 kg／5g			
	GZⅡ－B200KF	200 kg／10g			

※単2マンガン乾電池(R14P)を、6本含んだ重量です。
※小型の自重は、表示部と計量部および、ポールの合計重量です。
※中型および大型の自重は、表示部と計量部の合計重量です。

本製品には、保証書を添付しています。
お手数ですが必要事項をご記入の上、弊社宛に FAX いただくか、
または弊社ホームページでのユーザー登録をお願いします。

ユーザー登録をしていただけない場合は、その製品の保証をしかねる場合があります。
保証書は保証規定をよくお読みいただき、内容を確認されてからお手元に保管してください。

万全の検査を行い品質を保証しておりますが、万一、保証期間内に不都合が発生した場合は、別紙保証規定に基づき無償で修理いたします。故障と思われた場合やご不明な点がございましたら、ご購入いただいた販売店または弊社営業部へご連絡ください。

新光電子株式会社

〈ホームページ〉http://www.vibra.co.jp/

本社・東京営業部：〒113-0034 東京都文京区湯島 3-9-11
電話 03-3831-1051 FAX 03-3831-9659

関西営業部：〒651-2132 神戸市西区森友 2-15-2
電話 078-921-2551 FAX 078-921-2552

名古屋営業所：〒451-0051 名古屋市西区則武新町 3-7-6
電話 052-561-1138 FAX 052-561-1158

つくば事業所：〒304-0031 茨城県下妻市高道祖 4219-71
（サービス係） 電話 0296-43-2001 FAX 0296-43-2130

ご購入店

3196M31